

戦争の記憶を後世に

鈴木 直博 (みどり21)



終戦から74年が経過し、戦争の体験者も高齢化し、多くの戦争体験が次第に風化してしまう恐れがあり、これらを後世に正しく伝えていく必要がある。

㉑ 戦争体験に関する資料について、市が保管・展示をしたらどうか。また、戦争体験談などを映像などで伝承していったらどうか。

㉒ 本庁舎ロビーで展示した写真や菊川文庫で展示した戦争体験に関する資料は、一部を除いて菊川文庫でお預かりしている。また、記憶を後世に引き継いでいくことは非常に大切なこと。こうした資料は歴史的観点から見ても大変重要なものであり、映像による体験談等も含めて、歴史資料として保存していく必要がある。

㉓ 毎年広島市で行われる平和記念式典へ市内3中学校から男女1名ずつ6名の生徒を式典へ参加させると共に、平和記念資料館の見学等の研修に派遣し、帰省後市民にその体験談を披露する場を作っ

たらどうか。

㉒ 生徒を派遣することは今考えていない。行った生徒と行かなかった生徒に落差が生じる。効果を高めるには、全校生徒を対象にした講演や語り部を呼んで話しを聞くことを今後考えていきたい。

他に「犯罪被害者支援条例の制定にあたり」、「スポーツで経済効果を上げよう」について質問しました。

語り部：堀尾 孝氏
イラスト：横地達雄氏



長期化する厳しい茶業への対応を

宮城 力弘 (みどり21)



㉑ 厳しい茶業経営に対応するための菊川茶業の方向性は。

㉒ 荒茶の生産は菊川地域では茶農協が、小笠地域では自園自製等茶工場が主体であり、経営体の違いはあるが、重点事業に掲げる組織の再編や経営体の育成、茶園の集積等の取り組みは、両地域ともに重要と考え、各茶工場や営農組織と経営体の強化に取り組んで行く。また、深蒸し茶発祥の地として、かおり高く、味わい深い菊川深蒸し茶を味わっていただくため、引き続きリーフ茶の消費拡大に取り組んで行く。

㉓ 海外での健康志向の高まりで緑茶の輸出が年々増加している。国内外の茶流通に必要な食品安全環境保全、労働安全など必要なGAP取得が重要である。茶のグローバル化に必要な茶工場のGAP取得状況や課題は。

㉒ 現在79工場のうち32工場が取得しており、未取得の各茶工場の意向を把握、分析し、取得や認証更新に必要な支援を研究していく。

㉑ 菊川が深蒸し茶発祥の地とされる起源や特性などを基にブランドの確立を目指す「G1（地理的表示）保護制度」の早期取得は。

㉒ 登録申請については、市、JA、茶業協会が組織する委員会で検討を重ねている。生産者や茶商への説明会、有識者への相談を進め、今年度中に国への申請を目指す。

GAP…農業において食品安全・環境保全・労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理
G1…地理的表示

他に「農業用ため池の防災対策と機能対応」について質問しました。



市内の茶園